

山田一彦(号-嘉丙) さん (昭和36年3月卒業) 伝統工芸士



— 経歴 —

1986年	江東区無形文化財登録
2000年	経済産業大臣指定伝統的工芸品の「伝統工芸士」合格登録
2006年	東京マイスター認定
2006年	東京都立工芸高等学校インテリア科の市民講師を務める
2012年	東京都伝統工芸士認定

祖父嘉平氏から続く指物師の家に生まれ、父仙吉氏の下で修業。

父が始めた茶道具作りを受け継ぎ、三代嘉丙を名乗り、屋号を「茶の湯指物千匠」として独立。

江戸指物協同組合員として多岐に渡り活動中。

[山田 嘉丙 | 江戸指物協同組合](#)

— 本校入学を考えている方へのメッセージ —

私が工芸高校を通っていた頃、家業を継ぐために入学をした生徒が全体の半分ほどでした。

残りの生徒も日中仕事をしながら、それでも勉強したいという想いをもった苦学生ばかりだったと思います。定時制高校とは言え倍率は高かったことを覚えています。

工芸高校に入学して2年の夏休み頃から、担任の先生(島田先生)の影響を受け、デザインの魅力にとりつかれ、父との間に亀裂が生じ父の元を離れ、先生紹介の社員80名ほどの製造メーカー(椅子・ベット)に半年間見習いとして仮入社しました。ここには定時制及び全日制卒の2名の先輩がおり、大変お世話になり感謝しています。その半年後に幸い本採用となり、椅子のデザイン、実際に職人が製作する工程及び加工法等毎日工芸に通学しながら、実践の刺激的な体験の中で鍛えられました。

このような結果となり、更に気持ちは家具から室内、建築へと膨らみ、先生にお願いして今度は2名の建築家(現役の大学教授)が立ち上げた設計事務所に入所させて貰いました。今考えると建築の事は全く分らない私を良く受け入れてくれたと、感謝感謝です。若さ故の無謀さですよ。8名ほど居た所員は皆大学の建築科で学んできた人達や高校でも建築科で有名な学校OBでした、しかし「為せばなる」の精神で11年掛かりましたが1級建築士を取得する事ができました。とにかく若い内は、やりたい事があればまずチャレンジしてみる事が大事と痛感する次第です。

しかし、ようやく取った一級建築士もその後2年ほどで止め(事務所解散)、父と相談し再び父の元へ帰り職人となり早50年を超えました。自分のやりたいことを充分にやってきましたので後悔はありません。今の指物師としての職人仕事にも過去の経験が大変役立っています。現在(2026年)1月に7回目の干支を迎えますが、まだまだ指物の製作に励み工芸の後輩達に木工技術を伝えて行きたいと思います。ひたむきに努力している若者を必ず周りの大人達は、暖かい目で見守っています。諦めず希望を持って前進しましょう。